

患者申出療養の試験実施計画の変更について

【申請医療機関】 東京大学医学部附属病院

【患者申出療養告示番号と名称】

告示番号 1

パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法

【適応症】

腹膜播種又は進行性胃がん（腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。）

【試験の概要】

S-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内併用療法は、標準治療であるS-1+CDDP併用療法を対照とした第III相試験において、腹膜播種陽性胃癌に対する有効性が示唆された新規治療法である。本研究は、患者申出療養制度下に、腹膜播種陽性または腹腔細胞診陽性の胃癌症例を対象として、本療法の安全性と有効性を評価することを目的とする。

審査腹腔鏡により腹膜播種陽性または腹腔細胞診陽性を確認し、腹腔ポートを留置する。21日間を1コースとしてS-1 80mg/m²/dayを14日間内服し、7日間休薬する。第1, 8日にパクリタキセル 50mg/m²を経静脈投与、20mg/m²を腹腔内投与する。本療法は腫瘍の進行が確認されるか、有害事象により継続困難となるまで反復する。主要評価項目は有害事象発現状況、副次評価項目は全生存期間、奏効割合および腹腔洗浄細胞診陰性化率とする。研究期間は1年、登録症例数は100例を予定する。

【実施期間】

2016年10月～2017年10月予定

【予定症例数】

100例（特例として21例の追加登録が承認された。）

【現在の登録状況】

施設名	症例数
東京大学	16
関東労災病院	14
新潟県立がんセンター	13
帝京大学	14
名古屋大学	10
斗南病院	7
鹿児島大学病院	7
近畿大学	6
大阪警察病院	3
愛知がんセンター	5
坪井病院	3
大阪府立成人病センター	2
金沢大学附属病院	2
九州がんセンター	3
自治医科大学	1
九州医療センター	1
北野病院	2
福島県立医大	1
国際医療センター	1
合計	111

【主な変更内容】

実施期間の延長

2016年10月～2017年10月予定 → 2016年10月～2018年10月予定

【変更申請する理由】

本試験は100例の登録を予定して開始され、2017年4月に21例の追加登録が承認された。追加登録の承認後に患者希望および適格性を再確認し、候補であった21例中11例が登録された。

2017年6月30日の時点において、111例の登録症例中78例で試験治療が継続されていた。これらの症例については、治療を終了することにより腫瘍が進行する危険があるため、新規症例登録は行わず、これら78例に限って治療の継続を計画するものである。

【試験実施計画書の新旧対照表】

添付資料 1 参照

【変更後の試験実施計画書】

添付資料 2 参照

【患者申出療養実施届出書の新旧対照表】

添付資料 3 参照

【変更後の患者申出療養実施届出書】

添付資料 4 参照

【変更承認状況】

2017年9月4日に東京大学大学院医学系研究科・医学部 特定臨床研究倫理委員会において承認済みである。